

平成21年度 個別施策管理シート

個別施策	20放置艇対策を推進する	コード 40620	施策推進 責任者 港営部長 企画調整室長 プレジャーボート対策担当部長
個別施策 の目的	サービスの対象者(誰のために) サービスの対象物(何を) 意図(どういう状態にしたいのか)	プレジャーボート利用者、地域住民 放置船舶 適正に係留保管されている	
個別施策 の内容	名古屋港の港湾区域内及び周辺水域には約1300隻の放置船舶が確認されています。港内全般に渡って放置されている船舶の係留保管の適正化に向けて、関係機関や利用者との調整、放置艇を誘導するための係留保管場の確保及び地域の実情に照らした規制によって、適正に係留保管されるようになっていきます。		

1. 個別施策の成果指標の設定と目標の達成状況

施策の目標	港内の放置船舶の数を減らします。					
成果指標名	単位	実績 H19	実績 H20	目標 H24	指標の説明(式)	
放置船舶の数	実績 目標	隻	1,310	1,280	370	達成率はH18調査時(1,550隻)に策定した削減計画目標値(370隻)に対する撤去率
	達成率	%	20.3	22.9		
新舞子ポートパークに係留保管されている船舶の数	実績 目標	隻	210	210	410	係留施設能力 I期:210隻、II期:200隻
	達成率	%	51.2	51.2		
目標の達成に影響を及ぼす 外的要因等						

2. 個別施策を構成する事務事業の今後の方向性

コード	事務事業名	事務事業の概要	主な成果指標名 (又は活動指標名)	単位	成果・事業費(千円・人件費込)			目標値 (目標年 度)	目標達成に 向けての状 況	事務事業の改善 ・見直しの余地		施策 貢献度 (H20)	適時 性 (H22)	今後の方向性			備考
					H19	H20	H21			多い	少ない			事務 事業の 方向性	取組の 方向性	コスト 削減 裁量 余地	
					成果実績 決算額	成果実績 決算見込額	成果目標 予算額										
4062001	新舞子ポートパーク 第II期計画の推進	新舞子ポートパーク第II期の事業化に向けた調整及び施設整備を行います。	進捗率	%	9	10	15	100 (H24)	やや遅れ	-	○	低い	普通	継続	維持	無	・20年度予算化が整わず進捗が少なかったことから、施策貢献度を低いと評価しました。
					11,747	4,122	4,189										
4062002	プレジャーボート係 留保管の適正化	放置等の状態にあるプレジャーボートについて、係留保管の適正化を図るため、地域の実情を踏まえた規制内容の条例を制定します。	条例制定への進捗率	%	5	15	30	100 (H24)	やや遅れ	-	○	低い	普通	継続	加速	無	・20年度の進捗が少なく、施策貢献度を低いと評価しました。
					3,645	3,579	5,540										
4062003	プレジャーボート暫 定係留保管区域・ 施設の確保	放置等の状態にあるプレジャーボートを収容する恒久係留保管施設を整備・確保するまで、暫定的に係留保管できる区域・施設を設置し、秩序ある係留保管を目指します。そのため、設置に向けて関係機関や利用者等との調整を行います。	暫定係留保管区域・施 設の設定への進捗率	%	10	15	30	100 (H24) 中間目標	やや遅れ	-	○	低い	普通	継続	加速	無	・一体的に進めている係留保管の適正化に向けた条例制定同様、20年度の進捗が少なく、施策貢献度を低いと評価しました。 ・24年度中間目標は、全体計画5箇所の中の3箇所について設定したものです。
					5,773	9,615	15,686										
4062004	放置等禁止区域の 放置船舶等の規制	新舞子ポートパーク(南5区)周辺を港湾法第37条の3の規定に基づく放置等禁止区域に指定し、定期的な巡視を行うとともに行政指導を行い、放置船舶等を移動・撤去します。今後、放置艇対策の状況に応じて、放置等禁止区域を拡大していきます。	放置等禁止区域内の放 置船舶の隻数	隻	16	0	0	0 継続事業	順調	-	○	普通	高い	継続	維持	無	
					17,010	12,635	3,837										
施策コスト(事業費合計)					38,175	29,951	29,252										

注) 目標値欄の「継続事業」は完了年度を定めず行う事業です。この場合の目標値及び目標年度は原則としてH24年度の中間目標として設定しています。

注) 事業費は総事業費から本組合負担分を抽出して計上しています。

3. 個別施策の実現に向けた今後の展開方向

現状における 課題認識	<ul style="list-style-type: none"> ・新舞子ポートパーク第II期計画については、その推進が急がれますが、世界同時不況から地方財政が悪化しており事業化の進捗が遅れています。 ・II期の整備がされたとしても、なおその数倍の放置艇が残っており、さらなる対応が必要ですが、関係者調整が非常に複雑化しています。
構成事務事業 の適正性 (事務事業の 構成内容の 妥当性)	<ul style="list-style-type: none"> ・事務事業構成は妥当であると考えます。
今後の 展開方向 (新規事業の 創出、事務事業 の見直し等)	<ul style="list-style-type: none"> ・新舞子ポートパーク第II期計画の推進については、財政状況を見極めながら早期整備に向けた取り組みを進めます。 ・恒久係留施設の増設には費用や時間を要するので、暫定係留保管区域・施設の確保をできるだけ速やかに行い、係留保管の適正化を図ります。